

# ごとう通信

第101号

平成21年5月1日

一気にすがすがしい季節になりました。先日、診療室があるビルの五階に行く機会があり、そこから外を見てみたら、多くの緑が広がっていてびっくりしました。新宿にも緑がたくさんあるんですね。

さて、先月、ある企業に呼ばれて講演をしました。医療とはまったく異なる業種で、社員向け講演会という形でした。そんなに大きくない研修室に八十名ほど集まっていただけ、本当にぎっしり。しかも、見回してみると作業服の方がほとんどで、背広姿の方がチラホラ。その中に女性が一人か二人。全体を見回して「すごい会場違いなところに来てしまったな

あ」と感じました。普段、看護、介護職や介護者を相手に話をする機会が多いのでいつもは女性が多いのです。ちょっと不安なスタート。

実際話し始めてみると意外や意外、皆さんとても熱心でした。二十歳代の作業服を着た男性なんてまったく興味もないのではと思っていたのに、介護の話は社会の関心事になっているんですね。



帰りにモノレールに乗っていると、その会社の男性二人がわざわざ声をかけてくださり、「うちの母が亡くなる前に聞いておきたかったですね」と話してくださいました。たしかに、

介護の話題は全員に当てはまるものですね。ちなみにその男性たち、「先生、この間来た落語家より話し面白かったですよ」と。とてもユニークな会社でした。

## ブーム

特に意識をしていたり、手を抜いたり(！)する訳ではないのですが、診療しているといろんなブームがあります。例えば、入れ歯をどんどん装着する時期や痛みのひどい方が多くこられる時期、さらには詰め物が取れる方が多い時期など。これが結構一カ月単位くらいで変わっていくんです。面白いですね。

一番分かりやすいのは入れ歯を多く作る時期なのですが、技工用の机に入れ歯を作る模型がぎっしり並ぶ時期があるかと思うと(うちでは入